

スポーツ川越

発行 川越市体育協会



公園広場に人と人とのふれあいを求めて

川越市体育協会副会長 村本 洋

最近の子どもたちは、「ちょっとしたことでも、すぐ疲れる」「面倒くさい」などといった、子どもの特性である体を動かすことを好まなかったり、体を動かして働いたりすることを進んでできない傾向があります。これは、自由に遊んだり運動したりすることが少なかったり、生活が便利になって体を動かさなくても済むこと等のためだと思います。また、姿勢の悪い人も増えてきているとも言われます。

社会の変化にもなつて、生活環境が大きく変わり今まで日常生活の中で、体を動かすことによつて知らず知らずのうちに筋力をはじめとする体力がついていたものが失われてきたことも一つの原因ではないでしょうか。しかし、社会が変わり科学が進歩しても、心身ともに健康でありたいと願うことは、誰も同じではないでしょうか。小学校の体育科では、心と体を一体としてとらえて、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、「楽しく明るい生活を営む態度を育てる」ことを目指しています。そして、このことが生涯を通じてスポーツに親しむ生き方に結びついていけばと思います。

今、スポーツに親しむ環境は整備されてきています。運動公園や体育館など立派な施設がつけられました。しかし、誰でも、いつでも、手軽に自由に運動に親しむことができる広場は、少なくなりました。

これからは、ますます余暇が増える傾向にあります。サマータイムの導入も検討されているようです。ちょっとした時間に気軽に運動できる場所が求められてくると思います。そこで、外国でよく見かける光景のように、散歩する人、仲間とボールけりに興じる人、ジョギングをする人、ベンチや木陰で読書をする人、家族でスポーツを楽しむなど、様々な人が集う街の中の大きな公園広場を確保することが求められてくるのではないのでしょうか。そして、老若男女が思い思いに集い、時を過ごす中から人と人との心のふれあいも生まれ、コミュニティの輪も広がることではないでしょうか。そのためにも、コミュニティ広場として緑あふれる憩いの場としての公園広場が多くなればと思います。

第五十二回市民体育祭

平成十一年度第五十二回市民体育祭は、八月八日の陸上競技を幕開けに、三月二十二日のスケート競技をもって全二十九種目が終了しました。

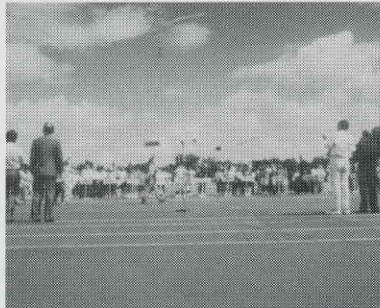
■総合開会式

九月十五日(祝)、陸上競技場を会場に、スポーツ少年団の体育祭といっしょに開催されました。三十団体・四二六名の力強い入場行進が行われました。大久原教育長の開会宣言、舟橋市長のあいさつの後、ホスト団体のテニス協会代表による選手宣誓が行われました。

第52回市民体育祭参加者

	参加者					合計
	少年	青年	婦人	壮年	その他	
野 球	0	青年・壮年	280	0	280	
卓 球	0	0	145	70	13	228
ソフトテニス	40	16	112	40	2	210
バレーボール	140	220	710	72	6	1148
バスケットボール	515	630	30	18	0	1193
サッカー	1090	677	18	0	0	1785
柔 道	269	91	15	47	0	420
剣 道	96	39	24	11	0	170
弓 道	8	30	30	30	10	108
空手道	96	29	5	27	0	157
陸上競技	567	8	2	4	0	581
水泳競技	1033	131	98	83	6	1351
ス キ ー	21	69	18	43	0	151
ク レ ー	0	7	0	30	15	52
ライフル	0	0	1	20	3	24
スケート	35	青年・壮年	5	0	40	
体 操	284	0	0	0	0	284
小 体 連	900	0	0	0	0	900
中 体 連	5574	0	0	0	0	5574
高 体 連	2520	0	0	0	0	2520
レクリエーション	53	17	580	101	136	887
バドミントン	0	52	50	72	0	174
少林寺拳法	104	40	0	6	0	150
ソフトボール	0	171	238	2613	470	3492
テ ニ ス	0	690	376	94	0	1160
ボウリング	3	3	16	25	5	52
なぎなた	11	0	33	1	0	45
ラグビー	215	44	0	45	3	307
ゲートボール	0			0	321	326
合 計	13565		9173		995	23733

備考 少年少女=小・中・高校生 青年=30歳未満
 壮 年=30歳以上60歳 その他=61歳以上



(総合開会式 入場行進)



弓 道

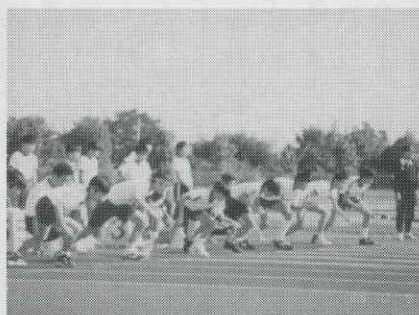
デモンストレーション種目として、リレーが行われました。バトンには各団体の特徴を表す用具が用いられ、笑顔あふれるレースとなりました。

■市民体育祭

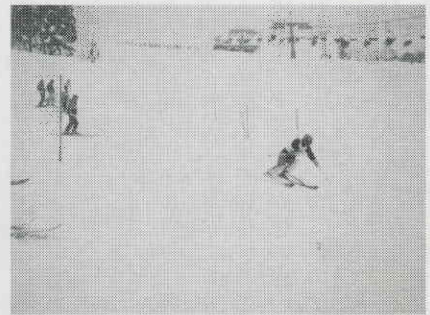
今年度の市民体育祭参加者数は、二三、七三三名で、昨年度よりも七五二名の増加となりました。多くの競技は九月十一月にかけて開催され、熱戦が繰り広げられました。その中から、いくつかの競技風景をご紹介します。



レク(民 踊)



(小体連)



(スキー)



(山田地区)

■町内体育祭
 スポーツの秋 九月から十一月にかけて、各地区で小・中学校を会場に実施されました。
 ・実施自治会 一九〇自治会
 ・会 場 数 三十会場
 ・参加者数 三三、四二〇名



レク(3B 体 操)

スポーツ講演会

小谷実可子氏

二月十三日、川越市民会館やまぶき会館に、ソウル五輪シンクロナイズド・スイミング銅メダリスト小谷実可子氏をお迎えし、「私の見たスポーツ名場面」と題してご講演をいただきました。

私たちには、五輪メダリストという華やかな場面に注目しがちですが、シンクロナイズド・スイミング(シンクロ)との出会いから現在に至るまでの活躍の他に、ご本人の努力はもちろんのこと、ご家族や、周囲の方々との助け合いを通して小谷氏の別の一面を垣間見ることができました。

五輪への道のりは、決して順風満帆だったわけではなく、四歳の頃から始めたシンクロのさらなる向上のため十五歳でアメリカへ留学し、そこで言葉と文化の違いと闘いながら、初めて自分より上の選手がいることに気づき挫折しました。そんな時いつも暖かく支えてくれたのが、コーチやホームステイでお世話になった方々だったそうです。

帰国されてから、五輪に出場するまでの間も、数々の課題とぶつかりながらも、自分に足りないものは何かと、常にプラス思考で乗り切り、ソウル五輪では銅メダル



小谷実可子氏

を獲得しました。

五輪という大舞台に心身ともに万全の状態に臨めたことが、プレッシャーをはねのけ、楽しく演技できた大きな要因と話されました。バルセロナ五輪では、惜しくも選手として出場することはできませんでしたが、五輪は厳しいからこそ人を引きつけるものだと言っていました。

現在では、JOC・IOC選手役員の活動の他に、小中学生を対象としたシンクロ教室を通じて人としての幸せを感じているようです。子供たちからスポーツに取り組む姿を学んでいると語る姿は、現役時代の選手以上に美しく、光り輝いていました。

第7回川越市スポーツ指導者養成講習会

第一日目	期日	9月20日(月)午後7時~8時30分
	内容	「スポーツ生理学」 体力トレーニングとその進め方
	講師	東京家政短期大学 吉田博幸先生
第二日目	期日	9月27日(月)午後7時~8時30分
	内容	「実技」 体力トレーニング
	講師	川越運動公園総合体育館トレーニングルーム専属トレーナー
第三日目	期日	10月4日(月)午後7時~8時30分
	内容	「スポーツ心理学」 運動の心理的効果
	講師	東洋大学 穂田 清先生
第四日目	期日	10月13日(水)午後7時~8時30分
	内容	「スポーツ指導論」 スポーツ指導法の基礎と原則
	講師	東洋大学 三浦邦彦先生
参加者 のべ218名		

活躍する選手たち

!!バレーボール第6回世界ユース女子選手権大会で金メダル!!



- ・(右)伊藤博義先生
- ・全日本ユースチーム監督
- ・川越商高監督
- ・(左)神麻衣子さん
- ・大会 MVP
- ・ベストセッター
- ・川越商高2年

先生に伺います。全日本ユースチームの選抜方法は、2年がかりで行います。全国の中学校の中から、当初は、35人~40人を選抜して始めます。

練習方法はどうか。生徒から年間スケジュールを取り寄せ、空いている期間に70日ほど合宿、代表を決めて行きます。

チーム編成上のご苦労は

それぞれ違った技術、特色を持った選手たちを、どういった方向性でまとめあげ、伊藤のバレーにしていくかが大変でした。

大会の様子、印象は。直前にイタリアで4か国大会を行ったので、外国でのバレーに慣れたようでした。そのまま、ポルトガルに入り、本大会では、中国に勝つて勢いにつき、ベスト8に入った時点で優勝を考えました。

今後、選手に望むことは。今回の経験を生かし、ユースからジュニアになっても世界選手権を目指すし、アテネ代表となって活躍することを願っています。

神さんに伺います。大会の印象は。

どのチームも長身で強そうでした。中でも韓国戦が一番印象に残っています。多彩な攻撃、粘り強いレシーブのチームでした。全員の力

で勝つてから、その後の試合を自信をもって戦えました。

決勝戦は、どうでしたか。メダルを取ることが目標だったので準決勝はきつかったが、ブラジルとの決勝戦は、気分的にリラックスして臨めました。優勝できて、うれしいです。

セッターのポジションは。チームの中心となるので、みんなを引っばっていきけるような心がけました。どの試合も全力でやろうと思えました。

将来の目標は。

日の丸をつけてプレーしたい。次のアテネを目指します。どんな上手なプロッターでも振って、アタッカーに楽に打たせられるようなセッターになりたいです。まずは、春高バレーに出場し、優勝することを目指しています。

(取材 小林・山原・萩原)

サッカー協会

『2002年Wカップ』という大仕事を控えた日本サッカー界。その底辺を支える地域協会の一つとして川越市サッカー協会がある。現在、社会人(一種)四十五、少年(四種)二十二、女子(五種)三のチームが登録している。

このほか、高校年代(二種)、中学年代(三種)でも活動している。主な活動としては、各種共通の大会として市民体育祭。特に女子にとつて、唯一の大会であり、大人から少女まで一緒に熱戦を繰り広げている。社会人は、県主催の大会の他、市主催の大会も年間を通して行われている。少年は、協会主催の親善大会をはじめ、少年団独自の大会を各学年にわたり実施している。

Jリーグ発足以来、サッカーを取り巻く環境も大きく変化し、多くの人々に愛されるスポーツとなっている。特に子供達にとつては、ただボールを蹴るだけでなく、身近にJリーガー(J2)の誕生もあり、夢の対象でもある。また、大人になっても自分の体で表現し、楽しむことのできる生涯スポーツの面と、団体競技を通じ、人との調和、交流により地域スポーツと

しての役割も重要である。そのためにも、協会として多くの人達が、思う存分活動できる場の確保等、スポーツ環境の整備にも力を注いでいきたい。



バスケットボール連盟

旧制川越中OB諸氏によって昭和26年「籠球連盟」として発足。

市民体育祭や県西部地区中学校・高校大会を開催し、普及に努めた。川越商高(小柳・小林)、川越高(柏瀬)、星野女高(河合)等の指導により発展成長する。

昭和46年霞北(小林)、武蔵野(宮根)らが、ミニバスチームを結成。現在川越フレンズ(千代田)を中心に活動。将来が期待される。一般の部として、市内の愛好家を集め、川越クラブ(小久保)を

結成。現在、市内各企業内チームや愛好家チームが40以上参加する市民体育祭でハツラツとしたプレーを見せている。市民体育館で毎週土曜の6時から練習している。

昭和54年バスケット大好きママさんが集まって、レッドペッパーズ(菊地)を結成。「生涯現役」をモットーにをみんなで楽しく練習に励み、各種の関東・全国の婦人・ママさん大会等に参加。いい汗を流し、交流を図っている。

現在、川越施設管理公社主催の303を主管、或いは中学校冬季リーグ大会、市内のミニバス大会や小中学生との交歓大会を開催し、普及に努めている。夢や希望の溢れる新しい連盟を目指します。



バレーボール連盟

川越市バレーボール連盟は、昭和二十三年に発足しました。

以来、市関係、体育協会、自治会体育協力委員の方々などのご支援のもと、バレーボールを市民全般に普及し健全な発展を遂げてきました。現在、連盟を柱に五団体に組織化を図り、県、全国へと活躍の場もひろげつつ活発な活動をしております。

また、県民総合体育大会コミュニティ部、門に合せ、連盟の主イベントとしてKVA杯を毎年開催し川越市民体育祭バレーボールの部として普及活動も合せて運営発展に尽しています。

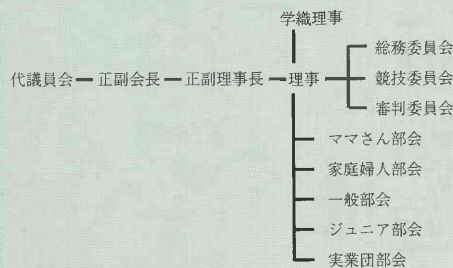


陸上競技協会

当協会は、母体である川越市体育協会設立と時を同じくして、昭和22年創立しました。その後、市民体育祭、駅伝競走、ロードレース大会等の主管団体として活動してきました。更に、「小江戸マラソン」、そして昭和57年に始まった「川越ウォークソン大会」などに携わらせていただき、今日に至っています。

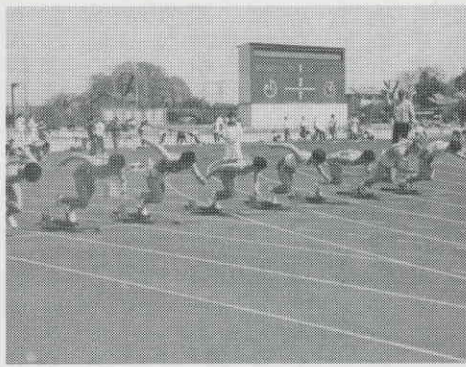
また、昭和27、28年度の県陸上競技大会、その後の県民総体一般の部に、川越市陸協、川越市代表として参加、優勝もしくは上位入賞を重ね、平成7年度からの県民総体陸上競技の部を川越運動公園陸上競技場に誘致する原動力となりました。

川越市バレーボール連盟組織図



集
だより

平成8年度より、愛好者の拡大と、記録向上の目的で、陸上競技講習会・記録会(公認記録会も含め)を開催しています。平成10年度は、計7回、二、六八七名の参加を得ました。(11年度は第5回まで二、二九五名)。小学生の参加も増え、目標だったジュニアの育成も少しずつ進んでいます。今後も、体協のご指導をいただきながら、新しい世紀に向けての事業推進に心がけて参ります。



剣道連盟

川越市剣道連盟は、昭和三十年にスタートし、すでに四十五年の歴史を持つ。特に昭和四十九年に川越武道館が開館してからは、ここを拠点に剣道人口も増加し、今では水、金、日の週三回が連盟の



川越市ライフル射撃協会

数少ないスポーツである。剣道に興味のある方は、一度武道館をのぞいてみて下さい。その時、あなたの新しい人生が始まるかも知れません。

射撃競技とは、機械の精密さと人間の能力、精神力の組み合わせを味わうスポーツです。

私達の協会は、昭和二十八年体育協会に加盟し、現在第四代会長を中心に直径〇・五ミリ(エア・ライフル)の十点を撃ち抜く為に、技術の向上と、生涯スポーツとしての活動を行なっております。

- (射撃競技の種類と距離)
- ラージボアライフル(三〇〇M)
- スモールボアライフル(五〇〇M)
- エアライフル(一〇〇M)
- エアピストル(一〇〇M)
- フリーピストル(五〇〇M)
- ビームライフル(光線銃一〇〇M)

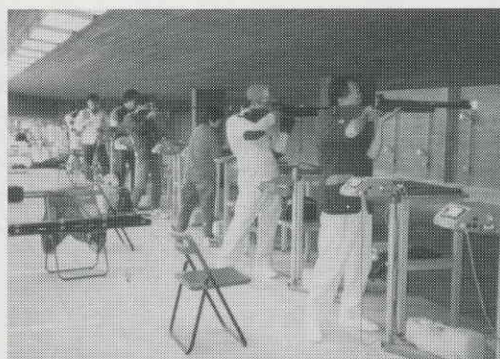
中でもビームライフルは、所持許可証もいらず年齢制限も無く小学生でも行なう事が可能(エアライフルは十四才から)です。
国体競技にも含まれるビームライフル射撃は、車椅子の方はもちろん全盲の方でも射撃を楽しむ事が

特 団 体

ができます。

昨年秋には、第十二回全日本身体障害者射撃選手権が熊本で開催されました。

当協会では、市民が気軽に楽しめる市民スポーツとしての定着を計るべく、ライフル射撃の普及、及び発展に努めております。



川越市バドミントン連盟

当連盟は昭和四十六年(一九七二)に結成され、川越市体育協会に翌年加盟認可されました。

我が国でのバドミントンは、戦前までは神戸や横浜など外人居留地で見られるくらいで、日本人からは「西洋羽つき」と軟弱なスポーツと見られていたようです。

川越市バドミントン連盟の発足



は随分遅れています。これは小江戸・城下町として質実剛健な気風の中で軟弱なスポーツに見られて馴染めなかったものと思われれます。

しかし、連盟が発足五年目以降は競技申込み者が大会毎に増加し、それまで行っていたシングルスも昭和五十八年からカットしなければ大会を運営できなくなり現在に至っております。

諸大会の運営に当たる役員の方々は、普段は所属のクラブの指導や運営を担っているのに関わらず、その寸暇を割いて当連盟の発展と技術向上に寄与頂いております。

高齢化社会を迎える21世紀にスポーツの二面性・技術向上と健康増進を対象とした考え方などの課題にこれから取り組んでいかなければならないと考えております。

体育功労者・優秀選手 表彰式

二月十三日、やまぶき会館において、平成十一年度川越市体育功労者並びに優秀選手表彰式が盛大に開催されました。

「体育功労者」は、多年にわたり本市体育・スポーツの指導に著しい功績をあげ、スポーツ団体の発展に努力された方に対し、舟橋功一川越市長より、表彰されました。

続いて、郷土の代表として、全国大会等に出場し、好成績をおさめた選手等に対して、「優秀選手賞」が大久原教育長、大谷体育協会副会長、村本体育協会副会長より手渡されました。

【体育功労者】
名誉ある体育功労者の方々は五名です。(敬称略)

- 中村 秀樹氏
- 川越市野球連盟
- 池田 清 氏
- 川越市サッカー協会
- 矢野 平雄氏
- 川越市スキー連盟
- 松崎 恵代氏
- 川越市レクリエーション協会
- 杉浦邦之介氏
- 川越市ラグビーフットボール協会



舟橋市長から表彰される体育功労者6-1

【特別表彰】

今年度は、特別表彰として、ポルトガルで開催されたバレーボール世界女子ユース選手権大会で、日本代表チームの監督として金メダルを獲得されました伊藤博義氏と、同大会で、最優秀選手とベストセッター賞を受賞されました、神麻衣子氏に対し、舟橋川越市長より授与されました。



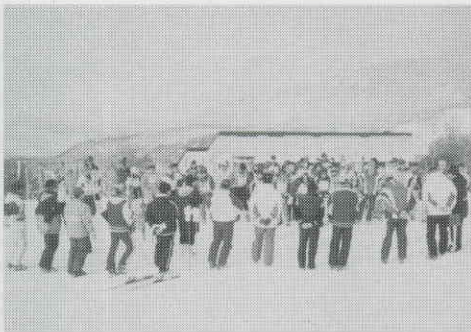
【優秀選手】

平成十年十一月一日から平成十一年十月三十一日までの一年間に、全国大会、関東大会等に出場し、郷土川越の名譽を担い活躍された優秀選手二七七名が表彰されました。

市民スキー講習会

第五十回市民スキー講習会が、平成十一年一月二十八日(三十一日、山形県蔵王温泉スキー場を会場に五十八名の参加者とスキー連盟の講師・役員により開催されました。

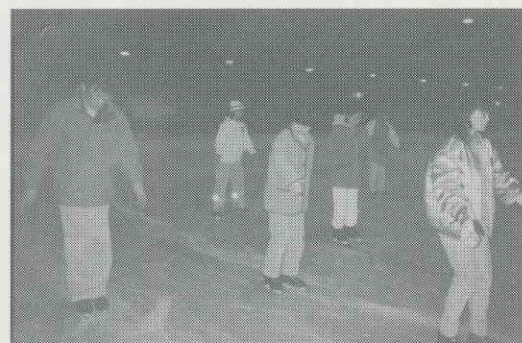
本年度は、五十回の記念大会で蔵王樹氷祭り日程を合わせ開催することができました。期間中、昨年同様好天に恵まれ、講習も十分実施でき、アフタースキーも楽しめ、参加者から大好評でした。



開校式

川越市スポーツ教室

今年度のスポーツ教室は、卓球を一般対象種目から、ジュニア・一般対象種目に変更し、合計五七三名の参加者が熱心に受講されました。



スケート教室

【一般対象種目】

No.	教室名	開催時期	参加者	会場	
1	テニス	7月～9月	50名	運動公園テニスコート	
2	ミニテニス	9月～10月	13名	市民体育館	
3	ゴルフ	Aコース	9月～11月	15名	プロスパー
4		Bコース	9月～11月	15名	
5		Cコース	9月～11月	15名	
6		Dコース	9月～11月	15名	

【女性対象種目】

7	バドミントン	9月～11月	36名	市民体育館
8	ソフトテニス	9月～10月	21名	城下テニスコート
9	ボウリング	9月	27名	川越ファミリーレーン
10	スイミング	7月	39名	川越スイミングスクール

【ジュニア対象種目】

11	スイミング	8月	40名	中央小学校プール
12	スキー	3月	119名	草津国際スキー場

【ジュニア・一般対象種目】

13	卓球	5月～7月	50名	市民体育館	
14	スケート	1期	1月	66名	川越水上公園
15		2期	2月～3月	52名	

第18回 川越ウォークソン大会

■期日 平成11年11月3日(祝)
 ■会場 川越運動公園陸上競技場
 ■種目(申込者数) 3km(二九二)・5km(七六三)・10km(三八二)
 及び周辺コース 合計一、四三六名



写真コンテスト最優秀作品「仲良く速歩」(八島京子さん撮影)

過去5回の参加者数の推移

回	申込者数	参加者数
14回	2,442	2,264
15回	1,903	1,570
16回	1,922	1,782
17回	1,874	1,762
18回	1,436	1,353

※第17回より競技の部を廃止。

右表のように、ここ数年参加者数が減少、横ばい状態が続きました。新しい時代への過渡期としての本年、内容を改めるべく検討が進められ、次の点が変わりました。(1)20kmを廃止。3kmの部を新設。(2)3・5・10kmの三部門に、年齢性別に関係なく参加できる。但し、ゴールは、一般と親子の部で分ける。

- (3)スタイル賞を廃止する。(シルバー賞は存続する。)
 - (4)参加賞をTシャツからタオルに。
 - (5)各種イベントを併設。(グラウンドゴルフ・ペタンク・ふわふわ・バントントワリング・抽選会)
- 大会の方向性として、「健康ウォーク」を前面に出し、それにつながる基本として、「正しく・美しく・速く」のテーマを大切にしていこう。そして、この二つの要素の調和を考えていくことを課題としています。そして、より多くの市民の方々

に参加してもらえようように、PRの方法をくふうするとともに、内容の検討も更に進めて、第20回記念大会を迎えたいと思います。なお、シルバー賞受賞の方は、男子十名、女子四名でした。

第28回市民駅伝競走大会

■期日 平成11年12月12日(日)
 ■会場 川越運動公園陸上競技場及び周辺コース
 ■参加チーム数 中学男子22、中学女子11、一般A3、一般B11、一般女子2、計49チーム



本年度は、期末テスト期間のため高校が不参加でしたが、各種目とも熱走がみられました。また、市民駅伝らしい和やかな様子もう

かがえました。

■各種目の優勝チーム
 (中学男子)川越西中A・(中学女子)初雁中・(一般A)川越警察署A・(一般B)日油技研A・(一般女子)はなてつ

第27回市民ロードレース大会 第24回スポーツ少年団新春マラソン大会

■期日 平成12年1月16日(日)
 ■会場 川越運動公園陸上競技場
 ■参加者数 ロードレース13種目・スポ少10種目一、一六三名
 同時開催となつて七年、この大会もすっかり定着し、盛会でした。小学生から、保護者、そして50歳以上の市民ランナーの方々まで一堂に会し、楽しい大会となりました。



賀詞交歓会

平成十二年一月九日(日)午後五時から、川越プリンスホテルにて川越市体育協会賀詞交歓会が、体育協会加盟団体及び来賓三百九十名を超える参加者のもと盛大に行われました。関口体育協会会長、ご来賓の舟橋功一川越市長の挨拶に続き、お二人による鏡割り式を行い、アトラクションは三味線の演奏が流れ、正月らしい雰囲気の中で各連盟の代表者が大いに交流を深めました。

平成16年埼玉国体

サッカー夏季大会へ移行

サッカー競技については、現在の国体では秋季大会(十月)として開催されておりますが、平成十一年八月開催の日本協国体委員会において、平成十四年の第五十七回高知国体から夏季大会(九月)へ移行することが決定されました。

◎川越市開催競技

△夏季大会▽

ゴルフ (成年・少年男子)
サッカー (成年男子)

△秋季大会▽

バレーボール(少年女子)
高等学校野球(軟式)

※国体豆辞典※

◎国体マークについて



昭和二十二年に国体マークが制定され、同年開催の第二回石川国体から使用された。

国体マークは図のとおり三十度右傾斜の赤色の火炎を直径の十分の一の幅の青色の円帯で囲んだものです。

シリーズ 体育施設紹介(1)

総合体育館 トレーニングルーム

トレーニングという言葉は以前から「基礎的な身体能力の向上を図る運動」として、スポーツを実践している人の間では使われてきました。今ではそれに加え、日ごろ運動とは疎遠な人でも、「生活習慣病」といわれる疾病の二因に運動不足が指摘され、「運動」トレーニング」という概念ができてきました。

◆トレーニングルームの利用者は延べ十万人に達します。

平成七年度オープン時の年間利用者は一万余人でしたが平成十年度には二万五千人となり、一日当たりでも五三人から八四人と急増しています。今年度中には利用者が延べ十万人に達します。

◆専門のインストラクターによる指導が受けられます。

初心者及び経験者の体力・健康レベルに応じた運動処方、栄養処方を行うために常時二名のインストラクターを配置しています。そのため、安全かつ適切な指導を受けることができ、バランスのとれた体力づくりができます。

◆最新の機器が配置され、同時に四十名程度の利用が可能です。



筋力運動系(ウエイトトレーニング)、有酸素運動系(エアロビクス) 機器及び柔軟体操、体力測定器材が配置され、一度に四十名程度が無理なく利用できます。また、コンピュータによる体力診断も実施しています。

トレーニングの目的が「競技力向上」「運動不足解消」のいずれにせよ、生活の一部として取り入れられるようになったことは、健康・体力づくりに大きく役立ちます。トレーニングルームでは、市民の皆さんの健康管理をお手伝いしますので、ご活用ください。

・ 利用料金 一回 三百円
・ 開館時間 午前九時～午後九時
・ 閉館日 毎週 火曜日
詳しくは総合体育館へ

☎ 二四一八七六五

体育賞受賞者

◎知事特別賞

- ・ 神 麻衣子氏 (川越商高)
- ・ 伊藤 博義氏 (ク・教)

◎功労賞

- ・ 岩井徳十氏 (体育協会推薦)
- ◎押田体育賞
- ・ 高山 晃氏 (中体連)

「受賞、おめでとうございます。」
スポーツ少年団の主な行事

◎体力テスト会

- ・ 期日 五月二十二・三十日
- ・ 会場 総合体育館
- ・ 参加 一八二五名

◎体育祭

- ・ 期日 九月十五日
- ・ 会場 陸上競技場
- ・ 参加 一〇四九名

婦人スポーツ団体の主な行事

◎集い「講演会」

- ・ 期日 九月十九日
- ・ 会場 市民体育館
- ・ 参加 三四七名

◎フェスティバル

- ・ 期日 二月二十六日
- ・ 会場 総合体育館
- ・ 参加 一八四名

編集後記

お忙しい中にもかかわらず、快くご寄稿くださいました皆様に厚くお礼申し上げます。